

「妖怪一闇にひそむ不可思議なるもの」展
 「妖怪は存在するのか？」と聞くと、多くの方は「いない」と答えることでしよう。しかし、存在しないはずの妖怪は古代以来、文字として記録され、絵画等でその姿を残し、人々に語り継がれてきました。

現在開催中の企画展「妖怪一闇にひそむ不可思議なるもの」では、時代ごとの人々の妖怪に対する意識や妖怪観を表現しています。文字によって「妖怪・物怪・鬼・もののけ」等と記され、「人知の及ばないもの」とされた妖怪は、絵巻物等に描かれるようになって姿かたちを得ることになりました。そこには、百年を経た道具に精霊が宿るといふ「付喪神信仰」の影響をもとに描かれた器物の妖怪たちの姿がありました。江戸時代になると、浮世絵師と戯作者たちが草双紙の作家として多くの妖怪本を刊行し、妖怪は多くの人々の目に触れるようになりました。

人々にとって、妖怪が身近になってきた時代でした。

最近では、アニメ等がきっかけとなり妖怪ブームが到来しています。そのルーツともいえるべき資料を見に博物館へ足を運んでみませんか。

日程：8月30日(日)まで 経費：入館料



「百鬼夜行圖」東洋大学附属図書館蔵



下赤坂畑灌組合

下赤坂畑灌組合は、井戸からくみ上げた地下水を畑に供給する

ためのパイプラインを共同で利用し、その維持管理等を行っています。現在は29戸の農家が所属しています。「以前はドラム缶などで家から農地まで水を運ばなければならず大変でした。かんがい施設が整備されたことにより、特に水管理が重要なサトイモについては品質の高いものを安定

的に出荷できるようになりました」と話すのは、同組合長の関口浩さん(下赤坂、写真左)。

組合では、ほかにも葉物野菜やニンジンなどを栽培しています。組合で生産された農産物は直売所や庭先販売所でも販売されています。丹精込めて作られた野菜を味わってみてはいかがでしょうか。



同組合では7haの畑に水を供給しています

市内の直売所等の情報は川越プチマルシェ庭先販売マップをご確認ください。右の2次元バーコードからアクセスできます。



7月の良く晴れた日の夕方、氷川神社では、多くの人が色とりどりの風鈴とその涼しげな音色を楽しんでいました。風鈴も忘れてはならない夏の風物詩の一つ。目と耳で感じる「涼」のトンネルに入ると、思わず時間が経つのを忘れてしまいそうになりました。

編集後記

どんぐり

夏

といえば、海やプールにかき氷、スイカや花火など、いろいろ思い浮かびます。取材からの帰りに初雁球場前を通ると、ずらりと並んだのぼり旗や多くのギャラリ、そして高校球児の姿を目にしました。小さいころ、市営プールで遊んだ後にかき氷を食べながら、高校野球の試合を観戦したことを思い出しました。